

2019年度第3回久寺家地区地域会議議事録

1. 日時：2020年2月2日（日）13：30～15：40

2. 場所：久寺家近隣センター会議室

3. 出席者：12団体23名

久寺家地区まちづくり協議会（5名）、土谷津町会、久寺家三菱自治会、久寺家二丁目自治会、久寺家マンション自治会、日新自治会（2名）、久寺家二丁目子ども会、久寺家子ども会、北地区社会福祉協議会、久寺家地区民生・児童委員（3名）、社会福祉法人栄興会つくし野荘（2名）、我孫子市市民活動支援課、地域会議事務局（3名）

（欠席：久寺家自治会、久寺家三菱子ども会、我孫子市消防団第9分団）

4. 議事内容：

（1）座長による開会挨拶

（2）新委員紹介：飯田土谷津町会新会長、高瀬日新自治会新会長

（3）各参加団体による活動報告と次年度への課題（以下、ポイントのみ記載）

① 市民活動支援課（前回持ち帰り事項のフォローアップ）

- ・側溝のフタ取付は完了した。
- ・あけぼの公園の東側階段および南側階段への手すりは3月末設置完了予定。
- ・近隣センター利用区分見直しアンケートを実施したが、現行3区分（午前、午後、夜間）継続が8割以上の賛同を得たため、現行通りとなった。
- ・今年度の委員に地域会議に関するアンケートを本日実施。
- ・3月アビスタに地域会議に関するパネルを展示する。

② 北地区社会福祉協議会（席上配布資料により詳細説明あり）

- ・北地区福祉フォーラムは、継続的な取り組みが難しい任期1年の自治会役員に代わり、福祉活動に興味のある方に参加して頂き、地域のささえあい活動を推進している。
- ・根戸まち協は来年度の活動休止を止め、根戸近隣センター管理委託契約を返上したとの報告があった。
- ・タマホーム我孫子店2階ホール（150名収容）の無料貸し出しがスタートする、問い合わせは「て・と・り・あ」との紹介があった。
- ・12年にわたり地域密着型小規模多機能サービスを提供してきたが、3月末で同事業を終了する旨報告があり、近年利用者が大幅に減ったこと、人手不足が職員の疲弊を招いていることなどの背景説明があった。
- ・同サービス終了後も、特養と居宅事業は継続、地域での相談活動なども行う。

④ 民生委員

- ・ 久寺家地区民生委員5人のうち、1丁目、久寺家、土谷津の3人が交代する、また主任児童委員も1丁目の方が決まった旨報告があった。
- ・ 席上、地域会議への参加で民生委員への理解が進み感謝している、高齢化が進んでいる今こそ、民生委員が地域に広く知れ渡ることが非常に大切であるとの退任者の弁があった。

⑤ 子ども会

- ・ まち協主催の書き初め教室、新春の集いとも日曜日開催であったこともあり、子どもたちの参加も多く且つ子供たちにも好評との報告があった。
- ・ 他方、地域の子供数は増えているのに、各子ども会への参加人数は減少しており、6年生を送る会と1年生を迎える会の合同実施や子ども会の統合を検討する等、子ども会のあり方が問われている現況の報告があった。
- ・ 席上、子ども会だけの問題とせず、まち協や自治会も子ども会と一緒に地帯の子どもへの対応をどうしていくのか考えなければならないとの発言もあった。

⑥ 自治会

- ・ 新年度の自治会役員決めの際であるが、高齢世帯では役員就任を免除してほしいとの声が出ている。元気な方もいるので一律定年制ではなく何らかの合意形成策の検討を要す。
- ・ 地域の児童数は増えているので、担い手を母親に限定するのではなく、まち協や自治会が子ども会運営に取り組んでももらえないだろうか。
- ・ 相変わらず、カラス被害や資源ごみの分類間違い等ごみ収集に伴う苦情が出ている。日新ではクリーンセンターから資源ごみの分別などにつき直接文書で注意が入った。関連で、ある自治体ではカラス対策にはゴミの夜間回収も効果があったとの紹介例があった。

⑦ まち協

- ・ 現在まち協メンバーは70人いるが、やはり高齢化が進んでおり、中々後任を見つけれない役員もいる。新規勧誘に努めると共に現役員には是非継続して頂きたい。
- ・ 広報部ではセンター便りの各世帯への配布を自治会にお願いしているが、自治会には独自の配布サイクルがあり、必ずしもまち協の希望日までに配布されない事態もあるので、タイミングが合わない場合はまち協独自の配布も考えざるを得ない。
- ・ これまで総務部主催で実施してきた麻雀大会やグランドゴルフ等の催しが総務

部の事情で中止せざるを得ないことになった。今後は総務部ではなく、同好者が自ら運営し楽しむサークル活動へと切り替え存続を図る。

- ・ これまで我孫子市では活発なボランティア活動が行われて来たが、その担い手も高齢化が進み人材不足となってきた。他市でもボランティアの高齢化は進んでいて、ボランティア団体にすべて任せるのではなく、行政が主体となって一緒に活動するようになってきているとのコメントがあった。

(4) 防災共助研究会活動報告（席上配布資料に基づく）

①10月発足以降の防災共助研究会の活動について、久寺家地区6自治会からのヒアリング結果に基づき、防災訓練や備蓄倉庫の現状と見直しのポイントを中心に報告があった。

②2020年度の研究会活動計画について、新年度自治会防災会役員への防災研修の実施と各自治会防災訓練計画の見直し立案と、各自治会の研究会が共同で防災訓練を実施するという提案がなされ、自治会長を含む地域会議の場で了承された。

③席上にあった主なコメントは下記の通り・災害時に中央学院大学、二階堂高校の学生に応援を頼めないかとの意見があったが、研究会で取り上げてはどうか。

- ・ つくし野荘は洪水発生時には退避が必要な地域にあるが、利用者は全員避難要支援者であり避難先はどこでも良いという訳には行かないため、洪水災害上は安全地帯にあるマザーズガーデンに一時避難所として受入協力願えないか検討中である。

- ・ 我孫子市の防災無線スピーカーは昨年の台風時全く聞こえなかった。
- ・ 消防署に防災訓練への参加協力を頂くには4月には予約が必要であり、実施計画が早くできない限り、自治会合同での防災訓練はハードルが高いと思われる。
- ・ 我孫子市からは昨年も実施要請されているため、見直しする防災訓練には安否確認訓練の実施織り込みをするのは良いと思われる。

(5) その他

今年度の地域活動費使用見通しと来年度の地域会議開催予定の報告があった。

以上